

【演習】

強度行動障害と コミュニケーション

－言葉のわからない人の疑似体験－

益子のぞみの里福祉会 レスパ

相田 真也

演習で使う物

□指示書A・B : それぞれ受講者÷2枚

スケジュール

時間	間隔	内容
10:50	20分間	演習のねらい・進め方
11:10	20分間	演習の説明・準備
11:30	20分間	演習1の実施と振り返り
11:50	20分間	演習2の実施と振り返り
12:10	50分間	✿ 昼食・休憩 ✿
13:00	40分間	グループディスカッション
13:40	10分間	グループ発表 (いくつかのグループに発表をお願いします)
13:50	20分間	まとめの講義

演習の目的

- 言葉が理解しにくい人たちの気持ちを疑似体験する
- 言葉が理解しにくい人たちへの言葉以外の伝え方を考える

行動障害は、わからない、伝えられないストレスに起因することが多い

デモンストレーション

- 会場から2名指名された方は、デモンストレーション用の「モデル」「モデルサポート」として前に出てきてください。
- 私がこれから日本語以外の言葉で指示しますので、「モデル」はできるかぎり指示に従ってください。
- 「モデルサポート」の方は何も反応しなくて良いので、後ほどどう感じたかを聞かせてください。

デモンストレーション

- おそらく言葉だけではわからないと思います。
- 次に一つの単語だけ日本語を混ぜて伝えます。
- それでもわからないようならば身振りや動作、軽い身体介助等を試してみます。

デモンストレーションのまとめ

- 演習の内容を振り返ってみましょう。
- 「モデル」に質問します。
 - 結果的にはどういう指示だったと思いますか
 - はじめから振り返ってみましょう
 - 言語のみのときどう感じましたか
 - 日本語が混ざって何かヒントになりましたか
 - 身振りや動作が加わってわかりましたか
 - 手がかりになったこと、わかりにくかったこと
 - そのときの気持ちや印象など
- 「モデルサポート」にも同様の質問をします。

演習の進め方

- 4～6名のグループ単位で実施します
- 「援助者」から「モデル」へ、簡単な指示をおこない、指示通りに従ってもらうかたちで役割分担します
- 「援助者」からの指示は、日本語ではありません。「モデル」は役作りや演技をする必要はありません。できるかぎり、伝えられた指示に従ってください。

演習の準備①

- これからグループ毎に演習を実施していただきますが、次のことに注意してください。
 - 他のグループに重ならないようスペースを確保してください(付近の広いスペースを活用ください)
 - 机の上や荷物などは片付けずにそのままの環境で実施します
 - グループ毎にグループの名前をつけてください(後で数人から意見を伺います)

演習の準備②

- グループ名が決まったら役割を決めます
 - 「援助者」:(指示を出す人)
 - 「援助者サポート」:(援助者の疑似体験)
 - 「援助者」が台詞を伝えやすいようカンペをだすなど
 - 「援助者」と「モデル」のやり取りを観察をする
 - 「モデル」:(指示を受けて従う人)
 - 「モデルサポート」(モデルの疑似体験)
 - 「援助者」の指示には反応しない
 - 「記録」:(振り返り内容の記録)
 - 「司会」:(振り返りの司会進行)

役割 (6人、5人ver)

6人 ver	
役割	内容
援助者	モデルに対して、聞き覚えのない外国語で指示を出す
援助者サポート	援助者の横に立ち、援助者が伝達するための台詞を見せる
モデル	援助者の出した指示に従い、アクションする
モデルサポート	モデルの気持ちを汲んで観察し、終了後その内容を記録者に伝える
司会	演習後の振り返りの司会進行
記録	演習後の振り返りの内容の記録

5人 ver	
役割	内容
援助者	モデルに対して、聞き覚えのない外国語で指示を出す
援助者サポート	援助者の横に立ち、援助者が伝達するための台詞を見せる
モデル	援助者の出した指示に従い、アクションする
モデルサポート	モデルの気持ちを汲んで観察し、終了後その内容を記録者に伝える
司会 (記録も兼任)	演習後の振り返りの司会進行・記録

***役割のシールを用意しておりますので実演の際には使用して行ってください。**

演習での注意事項①

- スタッフが「援助者」に台詞を配布しますので、「援助者」は指示内容を確認してください。
- 「援助者」は、①「援助者サポート」と一緒に指示ができる環境であるか確認してください。②「援助者サポート」以外に指示内容を見られないよう注意してください。
- 演習中は日本語は一切禁止です。
- 言語は配布された言葉以外は使いませんが、行動を肯定する時の「いいよ」「OKです」「よくできました」の意味として「オーバ」、
- 行動を否定する場合の「違います」「NO」の意味として「ジョク」は多用して構いません。
- 期待する行動が全部できたら終了です。

演習での注意事項②

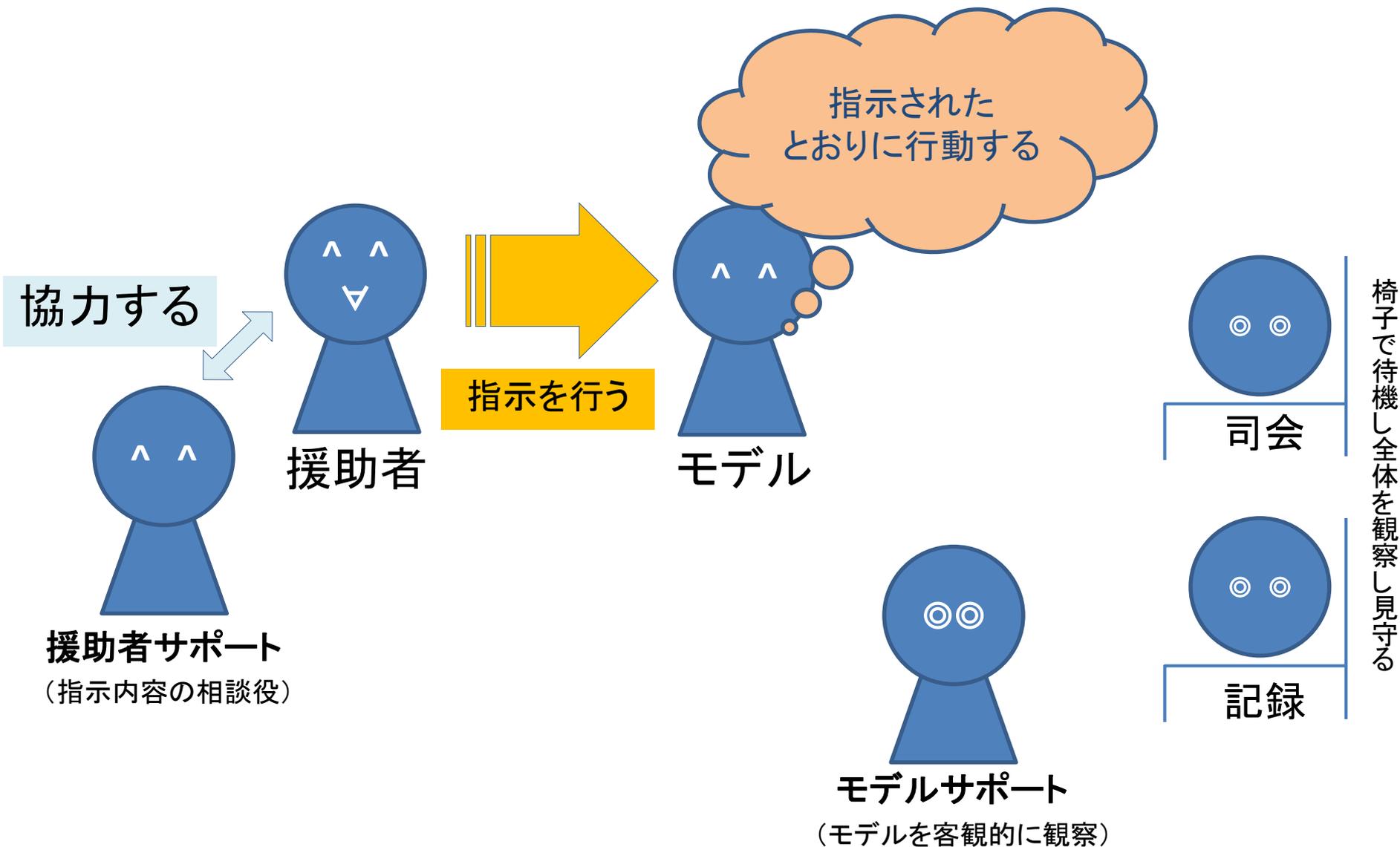
- 指示の出し方は司会のアナウンスにしたがって順番に実演してください
 - 言語のみ(意味不明)
 - 指示された一つの単語だけ日本語を混ぜる
 - 言葉以外の指示を①から③へ順番に試行します
 - ① 指さし、ジェスチャー、具体物を見せる、そのものの近くに連れて行く、言語との組み合わせ
 - ② 実際に行って見本を示す
 - ③ 手添えや身体介助

演習での注意事項③

- 「モデル」の方は、言葉のわからない人の演技をする必要はありません。
- 指示されたことにできるだけ忠実に応えるようにしてください。
- 「モデルサポート」は「モデル」の後方に位置取り、「援助者」からの指示を自分だったらどのように捉えるか考えながら見守っててください。手や口は出さないでください。
- 「記録」と「司会」は演習中、本演習内容を観察しておいてください。
- 時間は演習①5分間。
演習②5分間。

演習のイメージ

演習できるスペースを
確保してください



- 演習が終了したら、全部のグループが終わるまで座席に座って待機しててください。
- 全てのグループが終わった後に、演習の振り返りを行います。

役割分担は大丈夫？

各自準備はOK？

では、

はじめましょう



演習の振り返り

- グループ毎に演習の振り返りをおこないます。
- 「司会」は振り返りの進行を、「記録」はグループ内から出た意見を記録してください。
- 「モデル」からのコメント
 - どんな指示だと思いましたか
 - 「援助者」の出した手がかりや言動をどのように捉えたか、感じたか
 - 実際に手がかりになったことは
 - わかりにくかったこと、勘違いはあったか
 - 「援助者」が意図した手がかり以外の表情や口調、態度などから感じたことは
- 「援助者」の指示の意図と合わせながら振り返ってみましょう。
- 「援助者サポート」、「モデルサポート」の人たちに相違はあったか確認しましょう。
- 時間は10分間です。

2回目の演習準備

- スタッフは指示書の入った封筒を「援助者」に渡してください。
- 指示の出し方の順番に注意してください。
 - 言語のみ(意味不明)
 - 指示された一つの単語だけ日本語を混ぜる
 - 言葉以外の指示を①から③へ順番に試行します
 - ① 指さし、ジェスチャー、具体物を見せる、そのものの近くに連れて行く、言語との組み合わせ
 - ② 実際におこなって見本を示す
 - ③ 手添えや身体介助

- 2回目の演習が終了したら、全てのグループが終わるまでその場で待機しててください。

指示ができる環境？

各自配置についた？

ドキドキの、

第2回目をはじめましょう



演習の振り返り(2回目)

- グループ毎に演習の振り返りをおこないます。
- 「司会」は振り返りの進行を、「記録」はグループ内から出た意見を記録してください。
- 「モデル」からのコメント
 - どんな指示だと思いましたか
 - 「援助者」の出した手がかりや言動をどのように捉えたか、感じたか
 - 実際に手がかりになったことは
 - わかりにくかったこと、勘違いはあったか
 - 「援助者」が意図した手がかり以外の表情や口調、態度などから感じたことは
- 「援助者」の指示の意図と合わせながら振り返ってみましょう。
- 「援助者サポート」、「モデルサポート」の人たちに相違はあったか確認しましょう。
- 時間は10分間です。

ディスカッション

- ・演習全体についてグループでディスカッションして下さい
- ・「司会」「記録」は引き続き同じ方をお願いします(^^)／
- ・ディスカッションの【テーマ】は下の4つです

【テーマ】

- 1、話し言葉の理解が難しい人の戸惑いを体感してもらいましたが、もう一度、どういう気持ちだったか話し合ってください。
 - 2、様々な手掛かりが出されましたが、援助者が意図した、あるいは意図していない、どのような手掛かりが有効でしたか。
 - 3、指示する側も、伝わらない、わかってくれないストレスを感じたと思います。どういう気持ちだったかを話し合ってください。
 - 4、通常の支援の中で、このような経験はありますか
- ・ 終了後、いくつかのグループに発表してもらいます。
 - ・ 時間は30分間です。 **はじめてください**